

目的 手工芸の捺染法には種々の様式技法がある。その多くは糊料を必要とする。糊料には種々の性質が要求されているが、今回は特に防染性を中心として研究をおこなった。従来より各種の糊料が使用されているが、手工芸の技法として型紙捺染、コーン抜き、筆がきなどを想定し、それに適する糊料の種類とその物性を検討し、もっともよい防染性の条件を知るを目的とした。

方法 糊料の種類は、糯米、小麦粉、アルギニ酸ソーダ、デキストリン、トラガントガム、CMCなどを用い、その粘性、曳糸性、浸透性、滲みなどを測定した。粘度計はB型粘度計を用い、濃度、混合度、時間経過、添加物の影響などによる粘度変化をみた。曳糸性は引張り試験機を用い、投入した金属棒の曳く流の切れる長さをも測定した。浸透性は各種繊維を用い、染料と混合して糊料と一定圧力のもとにおき浸透の状態を観察した。防染性は一定の型に切りぬいた型紙に糊置き、またはコーンがき、筆がきを糊料でおこない、常法により染色、糊おとしをしその結果を4段階に評価したのり、それぞれ条件との相関関係をみた。

結果 糊の粘性は各種条件により変わるが、大体これらの技法では10000CP以上が必要であり糊料の種類によって一定でない。型紙捺染には可塑的流動性を示すものが適当であり、コーンがきや筆がきにはある程度の曳糸性や流動性が必要である。浸透性も悪くても良すぎても防染性は劣る。